

岩手県におけるマイマイガの発生生態と防除 (Ⅱ)

—過去の発生事例と終息及び防除—

1 はじめに

前回(林業技術情報No.41)は、森林におけるマイマイガの異常発生と終息に至るこれまでの知見について、その特徴、生活史及び食害による影響を報告した。

本報では、過去の異常発生事例と終息に至る経過及び防除法について報告する。

2 過去の発生事例

- (1) 海外では、南東ヨーロッパで7～9年ごとに大発生し、3年間続くとの報告がある。また、アメリカでは、大発生が何年も続くことがあり、10年近く継続するともいわれている。
- (2) 日本では、北海道で10年ごとに不活動期と5年ごとの活動期が周期的にやってくるといわれており、11年周期で大発生を繰り返すとの報告がある。
- (3) 岩手県では、古くは旧衣川村で昭和30年～38年に500haを越す発生記録がある。また、岩手町と旧玉山村では、昭和39年～41年、昭和48～50年にかけて約10年周期の発生が記録されている。しかし、最近では、森林での大発生は報告されていない。

(図-1)

3 天敵の出現と発生の終息

- (1) 一般的には、マイマイガを含めて、森林害虫が大発生した際、2～3年で終息する。その原因として、野鳥、昆虫、微生物などの天敵の働きが挙げられる。
- (2) マイマイガの場合、岩手県では、天敵のうち、ウイルスと菌類(かび類)による流行病が主な要因となり、これらの流行病によって終息している。
- (3) 昭和47年の旧江刺市での発生、旧衣川村、旧玉山村などでの大発生の際も、流行病の発生が観察されている。
- (4) 今回、葛巻町でも、これら流行病の発生が観察されはじめている(写真-1)。

4 防除法

- (1) 防除法として卵塊採取、薬剤散布が挙げられる。
- (2) 卵塊採取は、幼虫が出る前に人手等で採取、焼却あるいは土に埋める方法である。街路樹や民家近くでは実施するが、大面積の場合には、効果は期待できない。
- (3) 薬剤散布は、幼虫を対象にDEP乳剤(ディップテックス乳剤等)などの殺虫剤を散布する方法である。幼虫が小さいうちに防除すると効果が高く、大半が蛹になった時期では、効果が低くなるが、散布に当たっては、水源地等を避けるなど、環境保全に十分留意する必要がある。

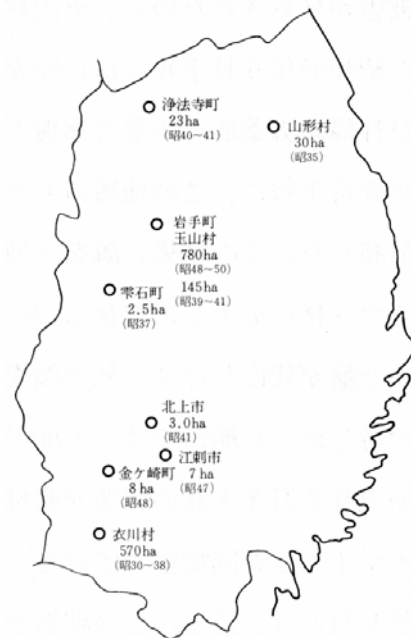


図-1 過去の森林被害の発生事例
(佐藤・高村 1975)



写真-1 流行病による幼虫の死亡
(葛巻町)

* 参考文献

佐藤平典・高村尚武 (1975) マイマイガの生態と防除, 岩手県林業試験場成果報告 第7号: 1-21.

(担当 企画総務部 主任専門研究員 小岩俊行)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410